

令和6年度第2回多文化共生推進委員会

- 1 日時
令和7年2月18日（火） 午後2時～午後3時30分
- 2 場所
市役所西庁舎 501 会議室
- 3 出席委員（敬称略）
委員長 川崎 直子
委員 本田 海斗、中西 真希、井上 登永、河口 苗子、木下 亜矢
- 4 欠席委員
副委員長 伊東 浄江
- 5 傍聴人
1名
- 6 事務局
社会文化部長 加藤 健一郎
社会文化部専門監 手嶋 俊明
多様性社会推進課 課長 本間 孝司、副課長 室田 すみえ、
係長 竹谷 昌祐、主査 太田 義男、
主事 伊東 拓弥、事務員 亀岡 侑果
7. 議題
(1)岡崎市多文化共生推進基本計画見直しに係る市民意識調査の結果について
(2)第2次岡崎市多文化共生推進基本計画の骨子について
(3)今後のスケジュール
(4)令和7年度事業計画（案）
8. 議事要旨
司会の多様性社会推進課長が開会の宣言。社会文化部長の挨拶に続き、岡崎市
附属機関等の会議の公開に関する要領に従い本会議の公開を説明。本委員会設
置要綱第4条第2項の規定に基づき本会議が有効に成立している旨を報告。そ
の後、議長を務める川崎委員長により議題の審議が進められた。

【岡崎市多文化共生推進基本計画見直しに係る市民意識調査案について】

事務局：岡崎市多文化共生推進基本計画見直しに係る市民意識調査案について説明。

委員長：委員の皆様から御意見・御質問はありますか。

C委員：アンケートの回収率も外国人の方もそれなりに回答率があったということで、本当に良かったと思います。

その他気になったところが、事業所雇用アンケートの質問 17「外国人従業員を増やしたいですか」の問に対して 8 件が、増やすつもりがないと回答しているが、ここでの理由は分かりますか？

事務局：正直なところ、分からないのですが、「雇用に関して手続きが非常に大変だった」という点が、別の質問で挙がっていますので、これも理由の一つかなという気はします。

C委員：これだけ人手不足、外国人ニーズが高まっている中、一方で実際に雇用しようと思ってやってみると大変だったということですね。今後こういうことがすごく問題になってくると思うので、もう少し掘り下げて原因を調べていただいて、何か改善できるような取り組みが分かれば、県でも少し考えていきたいと思っています。

私自身も、そういうことかなと思いますが、実際に直接聞ける機会もあります。この回答していただいた企業自体も恐らく、受入れ企業の中でも、外国人に対して理解があって一生懸命取り組まれている企業だと思います。答えていない企業になると、なおさら、いろいろと問題がたくさんあると思います。こういうところが、数字になって、本当の現実的な問題が見えてきているのではないかと感じます。

委員長：これは自由記述とかはなかったのでしょうか

事務局：ありました。

委員長：今回答えてくださった企業は、外国人の雇用に対して既に理解があった上で、それを増やすつもりはないという回答が第 1 位になっています。その理由が分かるといいですね。
木下委員いかがでしょうか。

E委員：全体を通して、言葉の壁が全体的にハードルになっているのかなと感じました。日本語教室を増やすのも 1 つの手ですが、例えば、先進的な翻訳ツールを標準化して利用するような施策についても考えていただけるとありがたいと思いました。

また、「子どもがいじめられるのが不安」だという点です。それが外国人だからという理由なのか、その日本語能力が不足するために学力が上がらなくて、いじめに繋がっているかもしれないと思いました。外国人の子どもの学力が、日本人の子どもの子どもに比べて何か差異があるのかという点も、興味があり調べてみたらどうかなと思いました。

他には、ボランティアによる日本語教室の重要性も非常に高いなと思いました。大事なのは、講師の方々の教育の質はどうかなってところですね。やはり有償の方が質が高いけれども、そこまでお金が払えな

いのでボランティアの日本語教室に行く人もいますね。その質についても、人気があって学習者が来てくれるならボランティア同士で質を上げていくような対策も取ってもらえると思いました。

最後に、外国人の雇用です。外国人の能力を上げていくには企業がどうしたら良いのか、どのような手を打っているのか、そこに困りごとがないのか、という点が気になりました。そこを解決して雇用する企業が増えることに繋がればいいなと思いました。

事務局 : 日本語教室は無料であるから参加しやすいという点一番大きいです。コロナが空けましたが、まだまだ人数が復活していないのを非常に感じます。教える方も少し手持ち草になってしまっているのもう少し多くの人が勉強しにきてほしいと思います。

アンケートの結果もありましたが、4割弱の人がボランティアによる日本語教室の存在を知らないということでした。僕たちの努力不足の面もありますので、今後周知に努めます。

それから、日本語教室のボランティアの人達の質についてです。

日本語を教える2つのボランティアグループは、それぞれ勉強会を定期的にやっています。互いに切磋琢磨してスキルアップに努めてもらっています。

テクノロジーを使うことについては、今後の検討課題かと思っています。

E委員 : あと、子どもの学力と外国人の学力。

事務局 : 正直なところ、先生方と話をしないとその問題は分かりません。やはり教育委員会との連携がもう少し必要です。各学校に日本語担当の先生が1人以上いると聞いています。年数回の日本語担当者研修会への参加などを通して情報共有をしていきたいと思っています。

E委員 : 外国人雇用企業の外国人に対するキャリアプランやスキルアップのサポートについて教えてください。

事務局 : 答えになっていないかもしれませんが、先日、情報交換会があり企業の経営者の方の話を聞くことができました。外国人事業者を雇用する際に、「整理、整頓、清掃、清潔、しつけ」の5つSがきちんとできている人を雇いたいそうです。できてない人は、どこで誰がどのように教えるのかということが、問題になっていました。企業は、5Sができない人を、事前雇用するというよりも、すでに5Sができる人を雇って、その人たちをさらにスキルアップしていく、という印象を受けました。

E委員 : 雇用主の困りごとについて市も話を聞いていることがありがたいです。

事務局 : 付け加えますと、企業及び各関係団体との連携ということ、次の計画では強く押し出していきたいと思っています。特に、外国人雇用企業の人達と情報交換を行い、「どんな問題があるのか。お互いに、歩み寄れるところがあるのか」を話して行きたいと思っています。

委員長 : 先程の日本語教室についてですが、質問15のところで「民間のお金

- を払う日本語教室」が 15.4%ですが、具体的にどういう教室ですか。
- 事務局 : 多分これはヤマサと「理知の杜岡崎日本語学校」だと思います。
- 委員長 : 意外と 15.4%は多いですね。「ボランティアが行うお金を払う教室」はどこですか。これは LICC ですか。
- 事務局 : はっきり分かりませんが、社団法人 ViVarsity 主催の「キッズ子どもひろば」かもしれません。これは 1 回 500 円で有料です。
- 委員長 : この調査は成人に対してだけですか。子どもがどこかで学べますか、という内容も入っていますか
- 事務局 : このアンケートの対象が 18 歳以上になっていますので、自分の子どもを想定しているかもしれません。
- 委員長 : 岡崎ですから結構いろんな形態の日本語教室があるなと思いました。マンツーマンで教える教室、勤めている会社や企業内の日本語教室、それからお金を払う教室、無料の日本語教室そしてボランティアが行っている日本語教室もあります。様々な形態の日本語教室があるのにも関わらず分からない人たちがいるということは、やはりもう少し周知していきたいなと思いました。
- では今の話を聞いてでも結構ですが、D 委員いかがでしょうか。
- D 委員 : 話の中で国籍と回答の関連性がありましたが「誰に、またはどこに頼りますか」という質問 29 があります。これは本当に人の状況や時期によって頼るところが変わるし、年齢層とか所属している場所とかによっても色々な回答があるだろうと考えます。その中で、ベトナム、ミャンマーなどの方が会社に頼っているという回答がありました。技能実習や特定技能の関連で来日している方はその制度の中で困りごとがあるでしょうし、中国、ブラジルの方で長く日本に住んでいる方は家族を頼ることになるでしょうね。
- 事務局 : 今おっしゃった通りでベトナム、ミャンマーの方はだいたい技能実習関係で生活自体が企業にどっぷりつかってる形なのでまずは、会社に頼ります。中国の方は、自分たちで支援を受けなくても自立してやっていけるような気がします。ブラジルの方ももう 20 年以上の人が非常に多いのでおそらく友達もたくさんいる。Facebook の繋がりもあり情報共有できている、という気がします。
- だからこそ企業との連携をこれからは強めていけば、ベトナム、ミャンマーなどの人たちと情報共有が可能だと思います。
- D 委員 : 長く住むかどうかによっても、必要となる支援が変わってくると思います。もう別に支援は要らないという方に行政が注力しても仕方がないと思います。本当に困って支援を必要としている人を見つけることが必要だと思います。
- A 委員 : 災害についての質問 27、28、29 です。ブラジル、中国の方たちは、永住者や定住者など身分系のビザで何十年といられる方が多く、日本に長く住もうっていう考えがあるので、災害意識もあり、何らかの備蓄はしていると思います。一方、ベトナム、インドネシアなど東南アジアの方た

ちは、就労ビザで来られる方が多いと思います。技能実習生、特定技能とか5年しかいない人は、3年で少しお金を日本で稼いで母国でそれを使おうと考えている人たちが多くから、災害意識が低いのかなと思いました。短期的な目で見ていると思うので、もし災害があったときに会社に頼ります、ということも仕方ないかな、と思います。

やはり、岡崎市で住むうえで市役所（岡崎市）を頼ってほしい気もあります。このアンケート結果の「会社に頼る人」が26%で「市役所」が17%です。これを同じくらいまでもっていければいいのかなと思いました。Facebookを使う方が多く、地震とか強い雨のお知らせもインターネットで知る方がほとんどなので、岡崎市としてどんどん積極的にSNSに力を入れて活用していけば、災害意識が高くなっていく方が、増えていくのではないかと思います。

事務局 : 岡崎緊急防災メール「防災くん」というものがあります。これを登録していただくと、英語、ポルトガル語、中国語、やさしい日本語で対応できますので、なるべくたくさんの外国人の方に入ってもらいたいと考えています。外国人雇用企業にこちらから顔を出して入ってもらうように出前講座をやっていけたらなと思っています。

1つお知らせですが、「防災ナビ」という防災に関するガイドブックを作成中です。フィリピン出身のスタッフが1から作ったユニークなものです。もうすぐ完成しますので楽しみにしております。

委員長 : 以前見せていただいた防災のビデオもよかったですね。せっかくなので、もっと周知していただけるといいかなと思います。
中西委員いかがでしょうか。

B委員 : 事業所アンケートの「外国人従業員を増やしたいですか」という質問17の回答で、「増やすつもりはない」と答えた事業所が8件53%となっていますが、具体的な理由は分かりますか？

事務局 : 具体的な理由までは把握できていません。

B委員 : 人手不足を補うために外国人材の活躍が期待されている中で、非常に気になる回答結果かと思いますので、ぜひ今後、機会を捉えて事業所の考えを掘り下げて確認していただければと思います。

事務局 : 日本人市民は、2割の方が関心があり、お付き合いを少しして、8割の方は知らない。自分の周りにいないっていうのは大きいですが、それでも「知らない」と答えたパーセントは大きい気がします。他人事ではなく自分事というふうになんとか意識を変えることを、今度の計画では、力を入れてやっていきたいと思っています。

委員長 : 議題1に関してご意見出尽くしたようですので、まとめたいと思います。まずは、行政と企業と連携を深めること。次にごみの分別や違法駐車などの生活ルール勉強会を開くこと。3つ目として町内会との連携も必要であること。最後に日本人市民が我が事として多文化共生を意識するような社会になること。以上4点のことが話し合われたと思います。

【第二次岡崎市多文化共生推進基本計画の骨子について】

- 事務局 : 第二次岡崎市多文化共生推進基本計画の骨子について説明。
- 委員長 : 今の事務局からのご説明について委員の皆さんのご意見ご質問を伺いたいと思います。どなたかご意見ある方いかがでしょうか。
- E 委員 : 感想になりますが、日本人と外国人の意識調査で困りごとのところがピンポイントで見えてきたと思います。このミッション・ビジョン・バリューに基づいて効果的な対策をやっていただければいいなと思いました。
- D 委員 : 日本語学習のところが気になるのですが、2-1 の主な事業で教育機関とのタイアップ事業とありますが、これは公立の小中学校だけのことでしょうか。それとも、民間の語学学校教育とかも入っているのでしょうか。
- 事務局 : すべて考えておりまして、小中学校それから民間企業、それから一番大きいのは大学です。留学生などと交流がありませんので。あとは留学生がどのようにその先就職していくのか、そういったことを調査できればいいなと思っています。最終的には岡崎で就職して岡崎に税金を納めていただくというのが理想なのですが、今はあまり岡崎で就職する留学生が少ないようです。
- 委員長 : この日本能力が十分でない外国人市民への支援として、質問 30 に「コミュニティ通訳員になってもらえますか」という問いに対して、「はい」と答えてる人が 21%で「いいえ」と答えた人が 48%です。ものすごく難しいことをしなければならないと思っているかもしれないので、少しハードルを下げた説明をして、お互いに助け合いましょうというような周知ができれば、もっと手が挙がるのではないかと思います。
- 事務局 : 簡単な説明はつけませんでした。できます、という人が 136 人。この数は非常に嬉しいです。136 人の人がコミュニティ通訳員でなくてもいいので、来てくれて一緒に連携して友達になってもらう。それだけでもすごく大きいです。
- A 委員 : 多文化共生な社会として、日本語能力は非常に重要ではありますが、外国人市民が日本人市民と同じように暮らしやすいまちにするために、いろいろな国の方が増えますと宗教の問題も当然ながら出てくると思います。
- 先ほどのアンケートで「いじめが気になる」とありました。会社でも宗教の関係で起こりえると思います。例えば、お祈りをしないといけないとか、この肉は食べれないからその子だけ別にすることがあると、子どもはどうしてもそういうところからいじめに繋がりがやすいところがあります。岡崎市が過ごしやすいまちと思われるために、その宗教のガイドラインを学ぶ機会を増やすことも必要です。価値観の違いが理解でき、どちらにも win-win な形にしたいです。宗教も日本語能力と同じくらい重要な部分かなと思います。

- 事務局 : インドネシアはイスラム教徒の方が多いですが、令和2年で238人、令和7年1月1日現在532人ということでかなり増えています。例えば国際理解講座でイスラム文化について学習し、日本人市民の理解を深めたいと思います。
- 委員長 : 最近、同じイスラム圏と言っても、多様な背景や解釈を持つ人たちが増えています。給食に関しても、宗教上食べられないメニューの日などは、お家からお弁当持参の子どももいます。そうした時にこそ、学校の中で多文化共生が進むと良いと思っています。宗教によってはクラスの皆で同じものが食べられないこともある、それはどうしてなのか、ということのを他の子どもたちも学習できると良いと思います。これをきっかけに差別するのではなく、反対に国際理解や多文化共生が進むといいなとも思っています。
- B委員 : 施策2-1で、自治体との連携の中で、「各種団体の多様な主体と連携協働し…」とありますが、各種協議会、連絡会議の活用というのは、どんなものを想定していますか。
- 事務局 : 特に具体的にはありませんが、例えば企業、大学、町内会、キリスト教会など外国人市民に関係する組織を想定しています。関係者を集めて定期的に情報交換ができると良いと思っています。
- 委員長 : ご意見が出尽くしたようですが、この議題2に関しては、相互理解、そして連携強化、安全安心を中心とした社会の実現を目指す岡崎市になろうという骨子があったのではないかと思います。次の議題は「今後のスケジュール」についてです。

【今後のスケジュールについて】

- 事務局 : 今後のスケジュールについて説明
- 委員長 : 今の事務局からのご説明について皆さまから何かご質問がいかがでしょうか。なかなか大変なスケジュールで事務局の方もご苦労すると思いますけれどもよろしくお願いいたします。

【令和7年度事業計画案について】

- 委員長 : それでは最後に議題4「令和7年度事業計画案について」ご説明をお願いします。
- 事務局 : 「令和7年度事業計画案について」説明
- 委員長 : 大きく分けて4つありますが、たくさんの事業があって本当に大変だと思います。これだけのことをすべて事業化してそれで実現した後でまたどんな形で皆さんからの反応があったのかっていうのを委員会で伺えればと思います。
- 皆さまの方から何かご質問とかいかがでしょうか。
- E委員 : 本日参加して、国籍と年齢がすごく多様化してて対応が非常に難しくなっていると感じます。それと地域に根差した支援というところで、やはり事業計画の中の本庁とリブラに置きますよってということか

らもっと広めていく必要があるのではないかなって思いました。
多様化してるという点では、外国人に特化した支援にグッといくというよりは、やはり言葉の壁を下げて、テクノロジーや日本語教室の充実で言葉の壁を下げて、今すでにある日本人向けの福祉を外国人も活用できるようにしていくっていうことも非常に重要ではないかと思いました。

骨子4番の外国人市民支援団体についてです。業務として、昨年の夏に開催したワールドフェスタを今年の夏にも開催します。これのいいところは、7町連合の総代さんたちと一緒に夏祭りを外国人たちと一緒に作り上げるイベントだというふうに思っています。昨年は、外国人の方がたくさんきていただいたのですが、まだまだ日本人の参加率が少ないというところで、今年は日本人の他の団体さんも一緒になって、取り組んでいきたいと思っています。

委員長 : ありがとうございます。

他の委員の方、何かご質問、ご意見いかがでしょうか。

B委員 : 初期日本語指導講座ですが、子ども向け日本語教室のボランティアと大人向けの日本語教室のボランティアを対象とした2つの講座がありますが、活動を予定している教室はそれぞれ別の教室があるのでしょうか。

事務局 : まず日本語教室について毎週木曜日と日曜日に行っているボランティアグループと、土曜日の午前午後とやっているボランティアグループがあります。そこで教えるボランティアを養成講座を開催する予定です。また、トルシーダさんをお願いしている子ども向け日本語教室が毎週日曜日に全部で7回やっている「ぴかぴか」です。そこに、トルシーダ所属の専門の方以外にボランティアでお手伝いしていただく方をもっと増やしたいということで、養成講座を開催しています。

委員長 : ありがとうございます。

お時間になりました。本日の議題はすべて終了いたしました。ご意見ご質問ありがとうございました。ここで司会の進行を事務局の方にお戻しいたします。よろしくお願いいたします。

事務局 : 委員長ありがとうございました。

これをもちまして令和6年度第2回岡崎市多文化共生推進委員会を閉会といたします。本日はお忙しい中誠にありがとうございました。